

(別紙)

耐震計算の誤入力に係る再発防止対策の実施状況

2025年4月
日本原燃株式会社

1. はじめに

2007年8月21日、当社社長は、青森県知事に再処理施設における耐震計算の誤入力に係る報告を行い、2007年8月31日、青森県知事から以下の4項目について要請を受けた。

- (1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施
- (2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底
- (3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施
- (4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

これら4項目について、2025年1月から2025年3月までの実施状況を以下に報告する。

2. 実施状況

(1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施

- ・ 計算機による設計解析を行う安全性評価業務が新たに発生した場合に、耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査を実施することとしている。
- ・ 1月から3月までの間において当該業務は発生していない。

(2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底

①風通しのよい職場風土の醸成に関する活動について

- ・ より風通しの良い職場づくりのため、安心して本音で話し合える場をつくるスキルの習得および向上のための講座を4回開催した。
- ・ 11月から12月にかけて実施した、職場風土に係る設問を含む働きやすさに関する社員意識調査の結果、職場風土に関する設問に関しては、社員の8割以上が「チームの一員として受け入れられている」、「困ったことがあったら助け合える」、「おかしいと感じたことがあれば話し合える」と回答している。
- ・ 2024年9月からは、設工認の審査から現場工事へ迅速に展開を図ることを目的に、業務間、プロジェクト間の横通し、連携のフォローを行う設計・工事推進タスクフォースを設置した。設計・工事推進タスクフォースでは、積極的活動により工事設計の質の向上（技術検討、仕様、積算精度の向上および明確化など）、方針決定から仕様確定までの期間の短縮、多忙な対応箇所へのきめ細かい人員サポートに取り組んでいる。
- ・ さらに、2024年11月からは、設工認審査、検査、訓練、保安規定、核物質防護の各分野の連携を深め、しゅん工に向けた課題を解決することを目的としたしゅん工準備タスクフォースを設置した。

②コンプライアンスの徹底に関する活動について

- ・ 第23回コンプライアンス推進委員会（4月22日開催）で審議

した「2024年度コンプライアンス推進活動計画」に基づき、従業員の意識・知識の向上等に向けた活動に取り組んでいる。

- ・1月から3月は、各職場におけるコンプライアンスをテーマとしたディスカッション、法令手続き漏れ防止を図る連絡会、メールマガジンの発行を行った。

③品質保証マネジメント会議

- ・2025年3月10日に「第29回品質保証マネジメント会議」を開催し、「労働災害の根絶に向けた取組み」および「人的過誤の撲滅に向けた取組み」をテーマに議論を行った。（協力会社63社が参加）

(3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施

- ・耐震計算誤入力の件については、新聞広告や当社広報誌、地域会議等を通してお知らせしている。（2007年10月29日に報告済）
- ・当社事業全般に関して様々な広聴活動を継続するとともに、頂いたご意見を踏まえて、わかりやすい広報活動に取り組んでいる。

(4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

- ・2007年12月27日に日本原子力技術協会（現 原子力安全推進協会）より受領した「協力会社との連携に関する特定評価」における改善要望に対する当社の取組み状況の確認結果について、2009年2月3日に日本原子力技術協会より報告を受けた。（2009年4月16日に報告済）
- ・その後、2022年12月までに、改善要望に対する取組み状況として以下の①～④の項目について改めて確認を受け、当社として追加対策や新たな改善は必要ないと判断した。
 - ①「協力会社に発注した業務の管理」
 - ②「協力会社とのコミュニケーション改善」
 - ③「言い出せる文化・職場風土の醸成」
 - ④「コンプライアンス（企業倫理遵守）の取組み」
- ・上記の①の項目については、「業務に精通した主管部署や品質保証部の監査への積極的な参加」や「工事を伴わない解析業務の一貫した管理のルール化」等、確実な設計管理を行うための仕組みを構築し、運用している。
- ・上記の②、③、④の項目については、前述の「2.（2）風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底」において取り組んでいる。

以上